

植物防疫情報第9号

平成31年3月22日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年産麦類の生育は、現在のところ平年よりも早めに推移しています。県農業研究所作況試験データ（11月第4半旬播種）によると、大麦の穂揃期はスカイゴールデンで4月の第2半旬頃、ミハルゴールドで4月の第3半旬頃、小麦は4月の第3半旬頃で、平年より7日程度早まることが予想されます。本病は開花期（大麦では穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。**本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。**

(1) 薬剤による防除法

薬剤散布は大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

(2) 防除上の参考事項

- ・大麦の穂揃期または小麦の開花最盛期から20日を過ぎると防除効果が低下する。
- ・大麦では2回目の薬剤散布の方が防除効果が高いので、1回目の散布時期を逃し、すでに大麦の穂揃期を過ぎた場合でも、速やかに薬剤散布を行う。
- ・小麦を除く麦類では、トップジンM粉剤、水和剤及びゾルでは出穂期以降1回しか使用できないので注意する。
- ・収穫後は速やかに乾燥する。

(3) 麦類赤かび病の防除薬剤

(H31.3.22 現在)

系統名	殺菌剤コード	薬剤名	農薬使用基準		
			散布量・希釈倍数	時期	回数
無機硫黄	M2	サルファーゾル	400倍	-	-
		コロナフロアブル	400倍	-	-
		イオウフロアブル	400～800倍	-	-
ベンゾイミダゾール	1	トップジンM粉剤DL	3～4kg/10a(小麦) 4kg/10a〔麦類(小麦を除く)〕	収穫14日前まで	小麦: 3回以内(出穂期以降は2回以内), 麦類(小麦を除く): 3回以内(出穂期以降は1回以内)
		トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで(小麦) 収穫30日前まで〔麦類(小麦を除く)〕	
		トップジンMゾル	1,000～1,500倍(小麦) 1,500倍〔麦類(小麦を除く)〕	収穫14日前まで	
E B I	3	トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
		トリフミン乳剤(小麦)	1,000倍	収穫3日前まで	
		シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで(小麦) 収穫14日前まで(大麦)	2回以内
		ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	
		ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
		チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫3日前まで(小麦) 収穫21日前まで(大麦)	
ストロビルリン	I1	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ゲアニジン	M7	ベルコート水和剤(小麦)	1,000～2,000倍	収穫21日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)

殺菌剤コード：FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会 <http://www.jfrac.com/>）による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

